令和７年度

運営に関する計画・自己評価（最終評価）

令和８年３月

大阪市立塩草立葉小学校

（様式１）

大阪市立塩草立葉小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、学校教育目標「共に学び、共に生きる子どもを育てる」～自分も人も大切にする～のもと、人権尊重を基盤とした教育活動を推進している。

統合から12年目。児童数は、統合時の241名から545名に急増している。中規模校になるにともない、さまざまな業務の見直しを進めていく必要がある。

また、増加している外国人児童や特別支援学級在籍児童への支援、多様性教育推進などを通じて、すべての子どもが健やかに成長するよう、全教育活動を通して取り組んでいる。

中期目標（令和4年度から令和7年度までの4年間で達成をめざす成果目標）

【最重要目標1　安全･安心な教育の推進】

①大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。

→R4は、74. 8%。R5は、73. 3%。R6 は、69. 0%。R7 は、75. 8%。

②大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査）における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。

→R4は、78. 6%。R5は、77. 6%。R6 は、76. 6%。R7 は、77. 4%。

【最重要目標2　未来を切り拓く学力･体力の向上】

①　大阪市小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．０１ポイント向上させる。

（令和４年度の対全国比→令和５年度→令和６年度→令和７年度）

算数　現６年　0. 99→0. 92→0. 98→0. 93　　現５年　なし→0. 93→1. 08→1. 01

現４年　なし→なし→0. 99→1. 12　　現３年　なし→なし→なし→0. 91

②大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する割合を前年度以上にする。

→R4は、68. 9%。R5は、62. 6%。R6は、68. 2%。R7 は、67. 6%。

【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】

①授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。［事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く］

→目標を達成できた日はなかった。

②教員ひとり当たりの月別の時間外勤務時間平均を大阪市平均より減少させる。

→Ｒ４、Ｒ５、Ｒ６、Ｒ７とも大阪市平均を下回っており、目標を達成した。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】

①大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。　令和６年度 69.0%→令和７年度 75.8%

②大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査）における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。
令和６年度 76.6%→令和７年度 77.4%

【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】

①大阪市小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．０１ポイント向上させる。
（令和６年度→令和７年度）

算数　現６年　0.98→0.93　　現５年　1.08→1.01
　　現４年　0.99→1.12　　現３年　なし→0.91

②大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する割合を前年度以上にする。
R6は、68.2%。R7は、67.6%。

【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】

①授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。［事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く］
→目標を達成できた日はなかった。

②教員ひとり当たりの月別の時間外勤務時間平均を大阪市平均より減少させる。
→Ｒ４、Ｒ５、Ｒ６、Ｒ７とも大阪市平均を下回っており、目標を達成した。

３　本年度の自己評価結果の総括

学校教育目標として掲げる「ともに学び、ともに生きる子どもを育てる」のもと、人権教育を基盤としながら、さまざまな教育活動に取り組んできた。

児童の学力実態は二極化が顕著であり、また生活指導面においてもさまざまな課題がある中でそれらの改善に向けて、教職員は献身的に取り組んできた。

４月の全国学力・学習状況調査（６年）や大阪府新学力テスト（５、６年）、６月の全国体力・運動能力、運動習慣等調査（５年）、１２月の大阪市小学校学力経年調査（３年～６年）、学校評価児童アンケート、保護者アンケートなどから、３つの最重要目標について成果がみられる。

今後も、家庭や地域の協力をえながら、基礎学力の定着および健康の増進、体力の向上をすすめていく。また、人権教育を根幹に据えて、増え続ける外国人児童への支援、特別支援教育、多様性教育、不登校への対応を進めていく。

なお、中期目標の達成状況について、最重要目標１ではいじめを許さない意識が育ってきた。最重要目標２では、４年生で前年度より向上が見られた。最重要目標３では、本校の時間外勤務時間が４年続けて大阪市平均を下回った。

令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

大阪市立塩草立葉小学校

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ①大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 ②大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査）における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ○いじめの未然防止と早期発見、早期対応をすすめる。	B
指標 ・５月「いじめ・いのちについて考える日」に、全学級でいじめ防止に取り組む。 ・いじめ事象を共有し、解決に向けて組織的に取り組む。 ・学期に１回以上、全学級でいじめについて実態調査を行い、早期発見に努める。	
取組内容②【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ○自分や友だちの良さを認め合う取り組みを通して、自尊感情を高める。	B
指標 ・児童会のたてわり班活動や委員会活動で交流を工夫する。 ・自分や友だちの良さに気づき、一人一人を大切にする人権教育を充実させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① 【目標について】 大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合が75.8%と前年69.0%を上回った。 【指標について】 概ね指標通り取り組むことができた。 ・「いじめ・いのちについて考える日」の学習や日々の学習から、いじめを許さない姿勢を育み、いじめについて相談しやすい環境を作った。 ・いじめアンケートや心の天気などを活用し早期発見に努め、その都度組織的に速やかに対応を行った。

取組内容②
【目標について】
大阪市小学校学力経年調査（３～６年、以下 経年調査)における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 77.4%と前年度以上にすることができた。
【指標について】
概ね指標通り取り組むことができた。
・児童会やなかよしタイムによるたてわりの交流機会を多く取り入れてきた。
・学習・学級活動を通して、児童一人ひとりの良さに触れる活動を大切にしてきた。

次年度への改善点

【取り組み内容について】
　どちらの項目の取組においても、限られた時間の中で取り組みとして十分に行われている。その上で、取り組み内容を増やすのではなく、今実施している取り組みの質を高めていく。

・校内設備の整備

【その他】
・年度目標に関して、経年調査の数値を設定すると低学年の数値が反映されないため、学校アンケートからの目標にしてはどうか。

令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

大阪市立塩草立葉小学校

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 ①大阪市小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．０１ポイント向上させる。 ②大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 〇自分の思いや考えを表現する子どもを育てる。 〇教員の指導力向上をすすめる。 指標 ・全学級で、話し合い活動を１日１回以上実施する。 ・全学級で、週に１回算数の朝学習に取り組む。 ・３～６年生において、年４単元以上総合的読解力育成カリキュラムに取り組む。 ・全教員が、年１回以上公開授業を行う。 ・区役所の教育活動支援事業を活用する。 日本語、登校支援、液晶ディスプレイ、漢字検定３年（目標合格率６５％）	B
取組内容②【基本的な方向５　健やかな体の育成】 〇運動に親しむ機会を設ける。 指標 ・体力向上に関する取り組みを行う。（シナプソロジーなど） ・外部講師による特別授業を行う。（「夢・授業」や出前授業など）	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

・各教科等での交流活動を通して、子どもたちの考えや思いを表現できるようになってきた。
・研究部からのプリントを活用して毎週１回の朝学習に取り組んできた。
・年４単元以上の総合的読解力育成カリキュラムに取り組んだ。カリキュラムを学年の取り組み内容に合わせて編成しなおすことで、取り組みの内容を深めることができた。
・全教員が年１回以上の公開授業に取り組んだ。スクールアドバイザーにも来てもらい、アドバイスを受けることで指導力向上につながっている。
・漢字検定は合格率が７２．６％で目標を達成した。

取組内容②
・シナプソロジー研修を行い授業に取り入れた。
・外部講師による出前授業を行った。（４年　「夢・授業」フットサル）
・体育の時間になわとびや駆け足などに取り組んだり、休み時間を利用してみんな遊びを行ったりして、運動に親しむ機会を設けた。

次年度への改善点

取組内容①
・自分の思いや考えを表現する子どもを育てるために、３～６年生の時間割に学級活動の時間を入れる。
・来年度も引き続き算数科の研究に取り組むので算数の朝学習を継続する。
・公開授業を参観できる体制をつくる。

取組内容②
・運動委員会が主体となって「〇〇週間」のような取り組みができるとよい。
・外部講師による出前授業が少なかった。もっといろいろな学年で行いたい。→しかし、抽選で漏れてしまうと取り組めないのであれば、指標に入れるのはどうか。
・外部講師を招いて、教員研修を行う機会が欲しい。

・取り組み内容に書かれていることができていても、目標の達成には至らない。→取り組み内容や指標を見直すべき。

令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

大阪市立塩草立葉小学校

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ①授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。［事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く］ ②教員ひとり当たりの月別の時間外勤務時間平均を大阪市平均より減少させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育ＤＸ(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 〇学習者用端末に親しむ機会を設ける	B
指標 ・デジタル教材の活用をすすめる。 ・朝学習でデジタルドリル(ナビマ)を活用する。	
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 〇教員の過重労働を抑制する。	B
指標 ・業務内容の改善、見直しを進める。 ・ゆとりの日を週１回設ける。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

デジタル教材の活用を進めた結果、ほとんどの学級で活用できた。その他、オンラインでサポーターとつないで母語指導への活用、Google classroom、心の天気、発表ノートなどを活用できた

取組内容②

目標通り取り組むことができた。年度末になるにつれて、教員一人当たりの月別時間外勤務時間平均が短くなってきた。

次年度への改善点
取組内容① 使い勝手の良いアプリやサイトを研修等で共有するなど、デジタル教材の活用をさらに進める。学習者用端末は、4月に比べ使用率は向上したが、さらなる活用を目指す。デジタルドリルは朝学習だけでなく、隙間時間などで取り組むようにする。朝学習に限定するのであれば、曜日を設定することで活用率を上げる。 取組内容② 校務分掌の内容を明確化し、偏りを見直し、教職員一人ひとりが責任を持って業務に取り組めるようにする。職員会議での連絡や子どもの共有を予め読んでおき、会議時間の短縮を進めていく。また、校外学習など、児童が主体的に活躍できる場を作る。